

## ii. 保育者の勤務体制

保育者の意見について、保育者の勤務体制別（分析軸 e）に子どもに与える影響を分析した結果が図 49 である。「1. 気になる影響がある」「2. やや気になる影響がある」を合わせると、「別勤務」77.8%、「同一勤務」39.6%と、「別勤務」の園が「同一勤務」の園に比べて 38 ポイント高くなっている。「3. 特に影響はない」を見ると、「同一勤務」39.5%、「別勤務」22.2%と、「同一勤務」の園が「別勤務」の園に比べて 17 ポイント高くなっている。「5. 良い影響がある」「4. やや良い影響がある」と回答した者を合わせると「同一勤務」5.8%、「別勤務」0%となっている。保育園児に「気になる影響がある」と感じている保育者が、「影響はない」とする保育者をやや上回っている。

すなわち、保育者の意見をみると、保育所保育士と幼稚園教諭の勤務体制が全く同様に一緒にローテーションを組んでいる「同一勤務」の園は、両者が全く別々にそれぞれの保育者間で勤務を組んでいる「別勤務」園に比べて、幼稚園児の夏期休暇が保育園児に与える影響が少ないという意見が多くなっている。

なお、保護者の意見では保育者の勤務体制別による明確な相違はみられなかった。

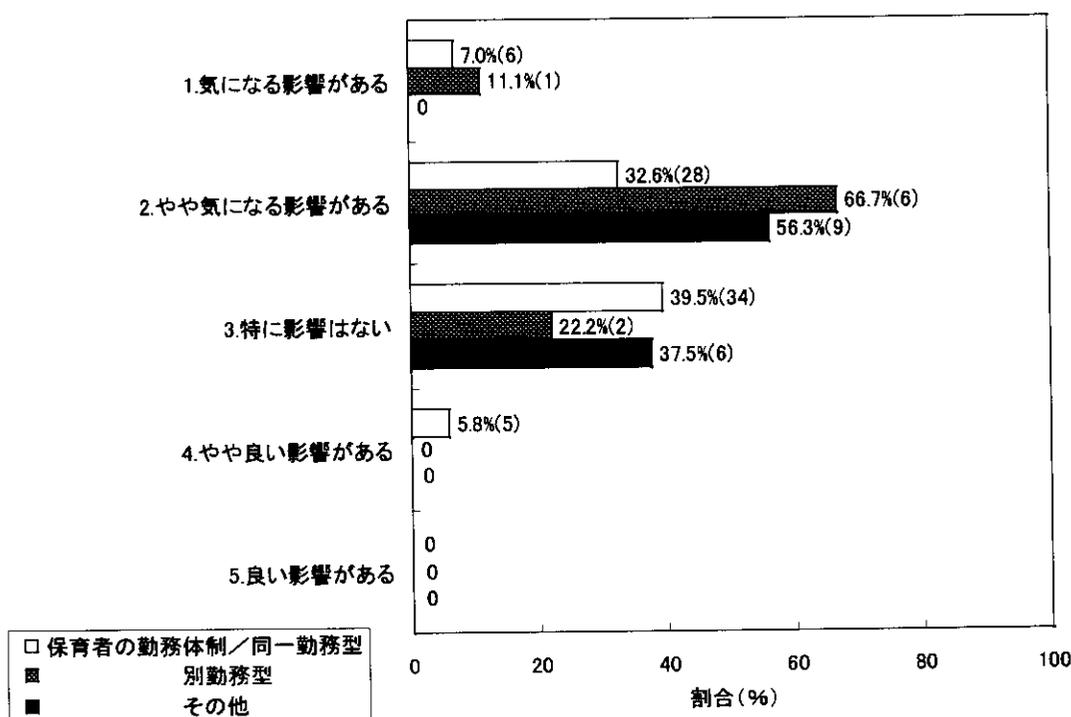


図49 勤務体制別〈e〉夏期休暇が保育園児に及ぼす影響（保育者の意見）

### iii. 親の子育てへの関心度

保育者の意見について、親の子育てへの関心度別（分析軸 g）に幼稚園児の夏期休暇が保育園児の情緒に及ぼす影響を分析した結果が図 50 である。「1. 気になる影響がある」「2. やや気になる影響がある」を合わせた数値をみると、“関心が低い” 64.2 %、“関心が高い” 34.9 %、“中間型” 48.2 %、の順となっており、“関心が低い” 園が、“関心が高い” 園に比べて 29 ポイント高くなっている。「3. 特に影響はない」をみると、“関心が高い” 44.2 %、“関心が低い” 35.7 %、“中間型” 33.3 %、の順となっており、“関心が高い” 園が、“関心が低い” 園に比べて 9 ポイント高くなっている。「5. 良い影響がある」「4. 良い影響がある」をみると、“関心が高い” 7.0 %、“関心が低い” 0 %、“中間型” 3.7 %、の順となっており、“関心が高い” 園が“関心が低い” 園に比べてわずかに高くなっている。

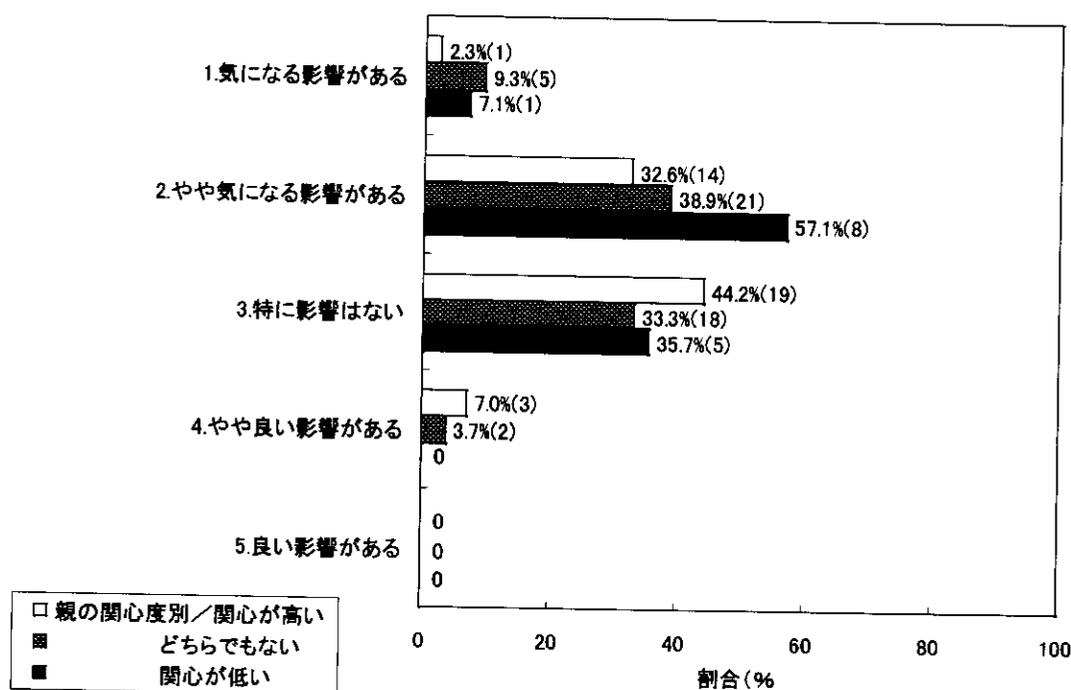


図 50 親の関心度別（g）夏期休暇が保育園児に及ぼす影響（保育者の意見）

一方で保護者の意見について、親の子育てへの関心度別（分析軸 g）に幼稚園児の夏期休暇が保育園児の情緒に及ぼす影響を分析した結果が図 51 である。「1. 寂しい」「2. やや寂しい」を合わせた数値をみると、“関心が高い” 55.2 %、“中間型” 48.6 %、“関心が低い” 40.0 % の順となっており、“関心が高い” 園が、“関心が低い” 園に比べて 15 ポイント高くなっている。「3. 影響はない」をみると、“関心が高い” 36.8 %、“中間型” 42.3 %、“関心が高い” 53.3 % の順に高くなっている。「5. ほっとする」「4. ややほっとする」をみると、“関心が高い” 3.9 %、“関心が低い” 0 %、“中間型” 0 %、となっている。

すなわち、保育者の意見をみると、親の子育てへの“関心が高い”園の方が、“関心が低い”園よりも、子どもの情緒への影響が少ないと感じていることが示されている。しかし保護者の意見をみると、親の子育てへの“関心が高い”園の方が、“関心が低い”園よりも、夏休みが子どもの情緒に与える影響が高いと感じている者が多いことがわかる。

このように保育者と保護者の意見にギャップが生じている理由は、次のように推測できよう。子育てに関心の高い親は子どもの気持ちに敏感であり、幼稚園児の夏期休暇を目のあたりにした保育園児の心のゆれ動きを察知して、対応すると考えられる。このため、保育者の目から見たときには“関心が高い”親の場合には、子どもへの影響が少ないと感じられるのであろう。

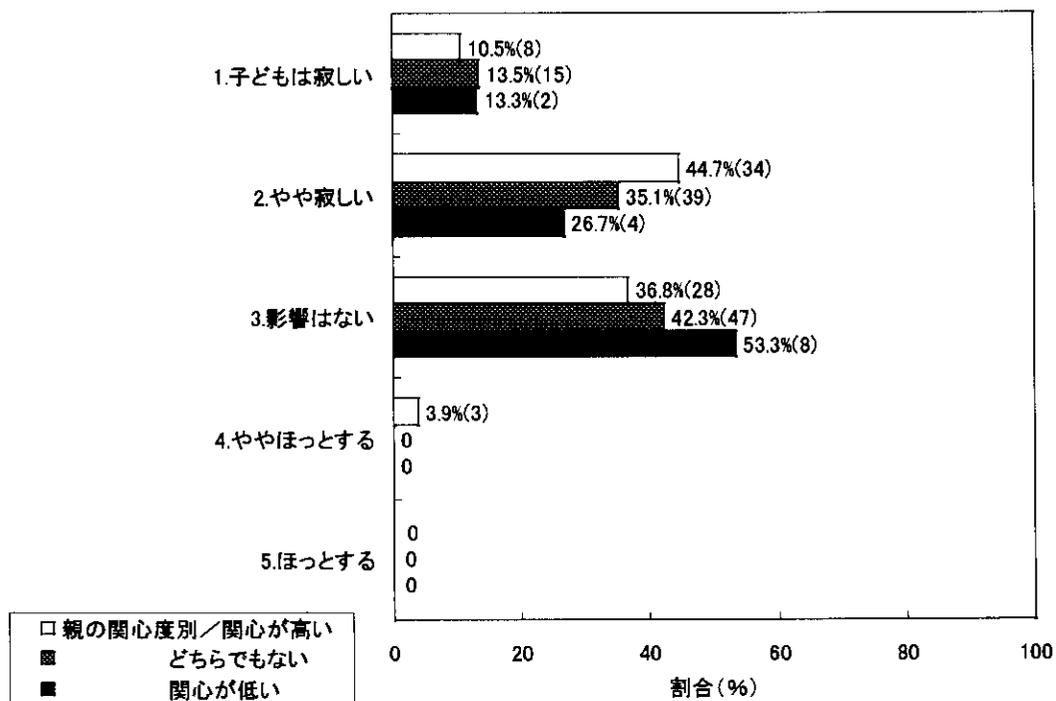


図51 親の関心度別〈e〉夏期休暇中の保育園児の心境（保護者の意見）

#### iv. 地域特性

保護者の意見について、“過疎地”“都市化”という地域の特性別に、幼稚園児の夏期休暇が保育園児の情緒に及ぼす影響を分析した結果が図52である。「1.寂しい」「2.やや寂しい」を合わせた数値をみると、“都市化”69.8%、“過疎地”38.9%、と“都市化”の園が“過疎地”の園に比べて31ポイント高くなっている。逆に「3.特に影響はない」をみると、“過疎地”44.4%で、“都市化”25.6%に比べて19ポイント高くなっている。

すなわち、保護者の意見をみると、“過疎地”の園は、近年新たな人口が流入し待機児が多い地域である“都市化”の進む地域にある園に比べて、幼稚園児の夏休みが保育園児の情緒に与える影響が少ないと感じていることが示されている。

なお、保育者の意見をみると、明確な差異ではないが同様の傾向がみられる。

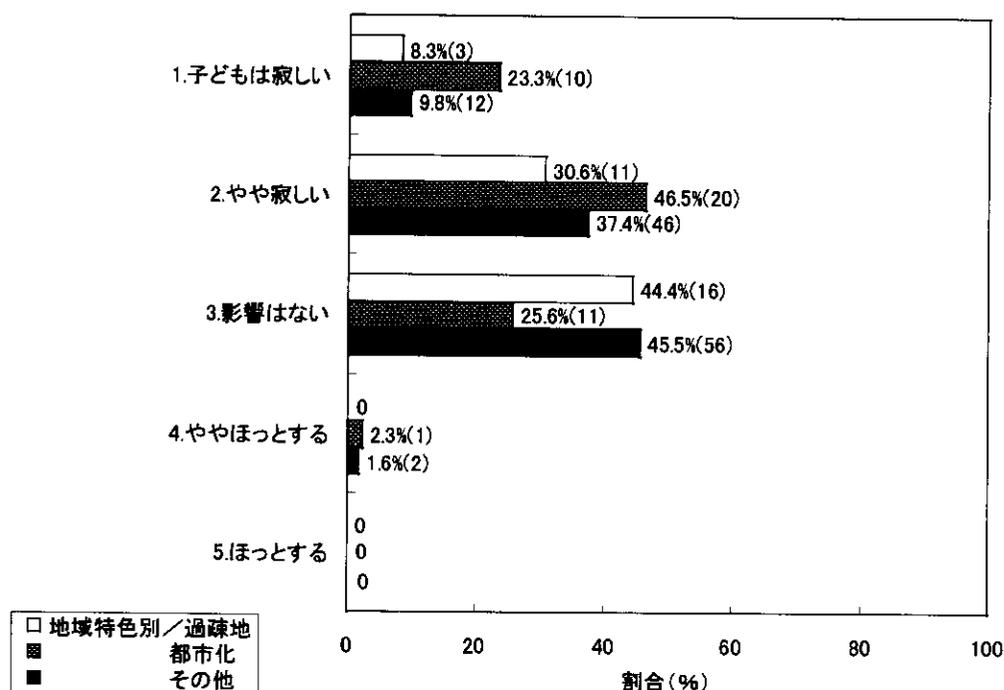


図52 夏期休暇中の保育園児の心境 × 地域の特性別 (f) (保護者の意見)

#### 4) 夏休みに休まない子どもに対する配慮

保育者に「夏休みに長期間休まない子どもに対して、あなたは配慮をしていますか」と尋ねたところ、図53の結果を得た。

「1.配慮していない」「2.どちらかといえば配慮していない」を合わせた数値は5.4%、「5.配慮している」「4.どちらかといえば配慮している」を合わせた数値は50.4%であり、これについてもやはり半数強が配慮していると回答している。

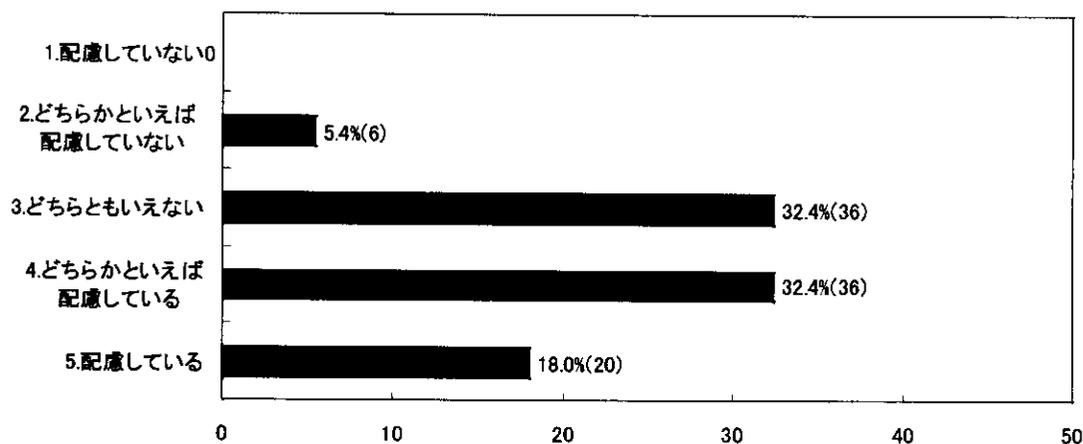


図53 夏休みに休まない子どもに対する配慮 (保育者の意見)

自由回答をみると、その具体的な配慮の内容は次のようなものとなっている。

### 資料3 夏期休暇中の保育園児に対する配慮（具体的内容）

- 体調・健康面・生活リズムへの配慮
- 喜んで登園できるような言葉かけ・楽しい遊びや園生活・期待
- ゆったりと過ごす
- スキンシップ
- 家庭的な雰囲気
- 一人一人とじっくり関わる
- 子どもの意志の尊重・子ども中心に暮らす
- 夏ならではの、園ならではの、集団生活ならではの遊びの充実  
（水遊び・クッキング・おばけごっこ、など）
- 異年齢児交流  
（日常とは違った保育になるので、不安にならないよう、持ち物の場所や遊び道具などの環境のセッティングをする・いつもと違う友達との関わりが多くなるので、仲介に入りながら楽しめるようにする）
- 幼稚園児が夏休みに入る理由を話す（家庭の事情の違い）
- 保護者との連携（子どもの様子をよくみて、休みが必要な場合には親に伝える）

一方で、少数だが、次のような意見もみられた。

「あまり配慮するとかえって意識するので、ふつうにしている。」「あえてしなければならない必要がないと考えている」

#### ④保育園児と幼稚園児のニーズの違い

##### 1) 保育者の意見

保育者に「家庭に代わって保育所で生活時間の大半を過ごす保育園児と、家庭での養育を基礎として短時間の教育を受けている幼稚園児とでは、その保育・教育に違いがあるとお感じですか（C票-Q12）」と尋ねたところ、図54の結果を得た。

「1.違いがある」「2.どちらかといえば違いがある」と回答した者を合わせると32.4%、「3.どちらともいえない」22.5%、「5.違いはない」「4.どちらかといえば違いはない」と回答した者を合わせると36.9%である。

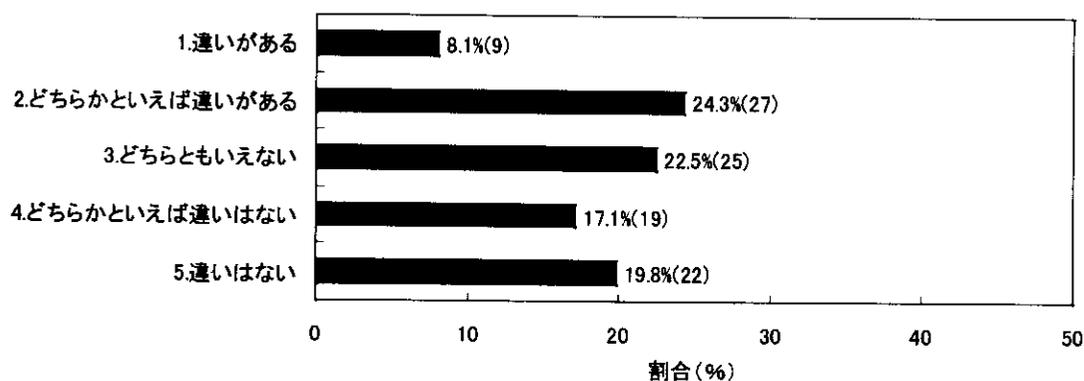


図54 保育園児と幼稚園児のニーズの違い（合同保育実施園の保育者）

同様の質問を統制群の保育所、幼稚園にも行ったところ、図55の結果を得た。

「1.違いがある」「2.どちらかといえば違いがある」を合わせた数値は保育所 62.1%、幼稚園 68.3%である。「5.違いはない」「4.どちらかといえば違いはない」を合わせた数値は保育所 21.0%、11.2%である。

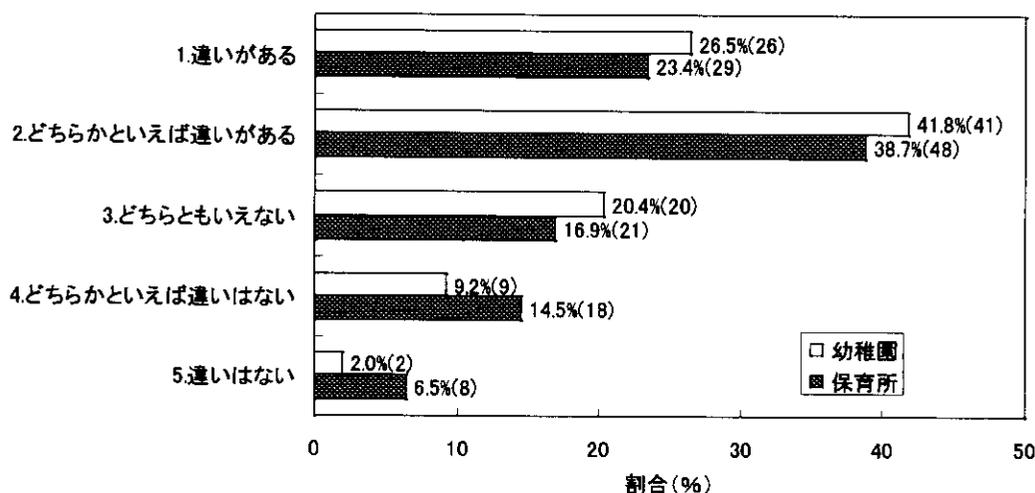


図55 保育園児と幼稚園児のニーズの違い（保育所・幼稚園の保育者）

「保育園児と幼稚園児とではニーズに違いがある」という意見は、実験群の合同保育実施園に比べて、統制群の幼稚園の方が 36 ポイント、保育所の方が 30 ポイント高い。「違いはない」という意見は、実験群の合同保育実施園の方が、統制群の保育所より 16 ポイント、幼稚園より 26 ポイント高い。

すなわち、合同保育実施園では、保育園児と幼稚園児のニーズに「違いはない」と考える保育者が、「違いがある」と考える保育者を僅かに上回る。これに対して、統制群の保育所・幼稚園は「違う」という意見が過半数を占めており、合同保育実施園との間に明らかな意見の違いがみられる。

本調査結果「園の概要」において示したように、そもそも合同保育実施園の 9 割以上が合同保育を開始した経緯・理由として、「保育所・幼稚園の区別なく同じ保育を行う」ことを理念として挙げており（p 65, 図 4 参照）、「違いはない」という意見が多いというここでの結果は、そのような理念の反映ともいえよう。

## 2) 保護者の意見

保護者には、上記の質問とは異なり、保育者の配慮について尋ねた。この結果については、後に記すこととする。

## 3) 保育者の認識に影響を及ぼすファクター

これを表 2（p 54 参照）の分析軸を用いてクロス分析をしたところ、グループ間に 20 ポイント以上の開きが見られた項目は、次の通りであった。つまり、この項目が保育者が子どものニーズの違いを認識するかどうかに影響を及ぼすファクターと考えることができよう。

### i. 集団規模

保育者の意見について、在園児の人数別（分析軸 a-1）に保育者の認識への影響を分析した結果が図 56 である。「1.違いがある」「2.どちらかといえば違いがある」を合わせた数値をみると、“200 人以上” 50.0 %、“100～199 人” 34.4 %、“100 人未満” 20.0 %、と、子どもの集団規模が大きくなるほど高くなっている。

すなわち、集団規模が大きくなるほど、「保育園児と幼稚園児の保育」には違いがある、と考える保育者の割合が高いといえよう。

### ii. 子どもの年齢

保育者の意見について、合同保育の対象年齢別（分析軸 b）に、保育園児への影響を分析した結果が図 57 である。「1.違いがある」「2.どちらかといえば違いがある」を合わせた数値をみると、“3～5 歳児” を合同保育の対象としている園では、53.0 %、“4～5 歳児” を対象としている園 23.4 %と比べて、29 ポイント、高くなっている。逆に、「5.違いはない」「どちらかといえば違いはない。」を合わせた数値をみると、“3～5 歳児” 29.4 %、“4～5 歳児” 40.3 %と、後者が 11 ポイント高くなっている。

すなわち、3 歳児から合同保育を開始した園の方が、保育園児と幼稚園児の保育の違いを強く認識しているといえよう。

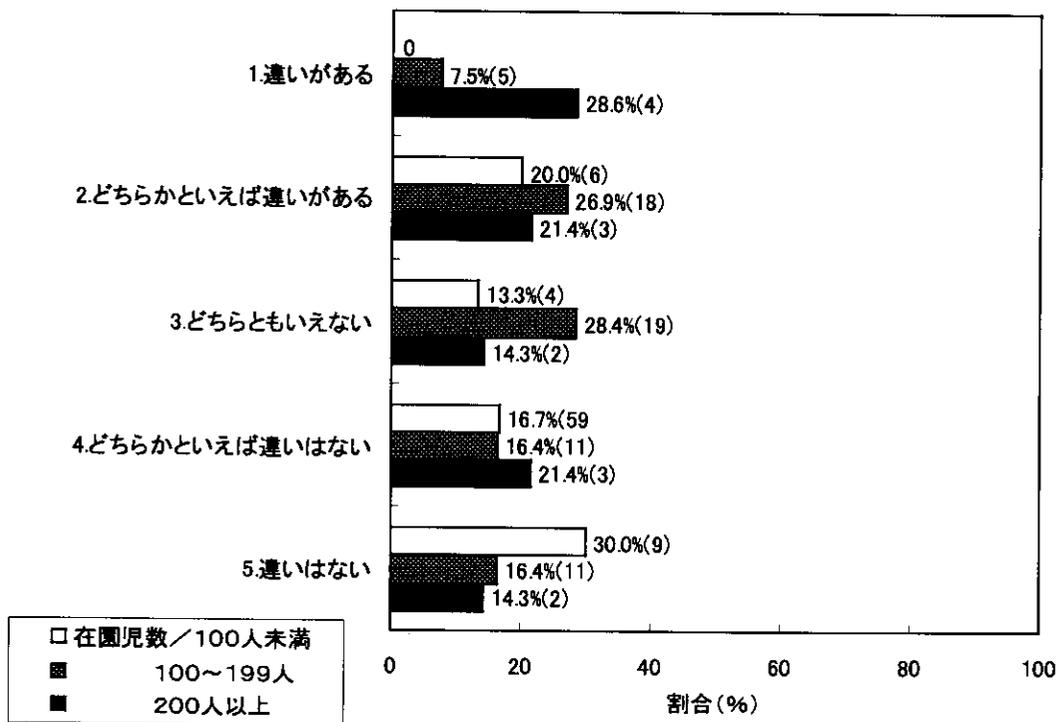


図56 在園児の人数別ニーズの認識〈a-1〉(合同保育実施園の保育者)

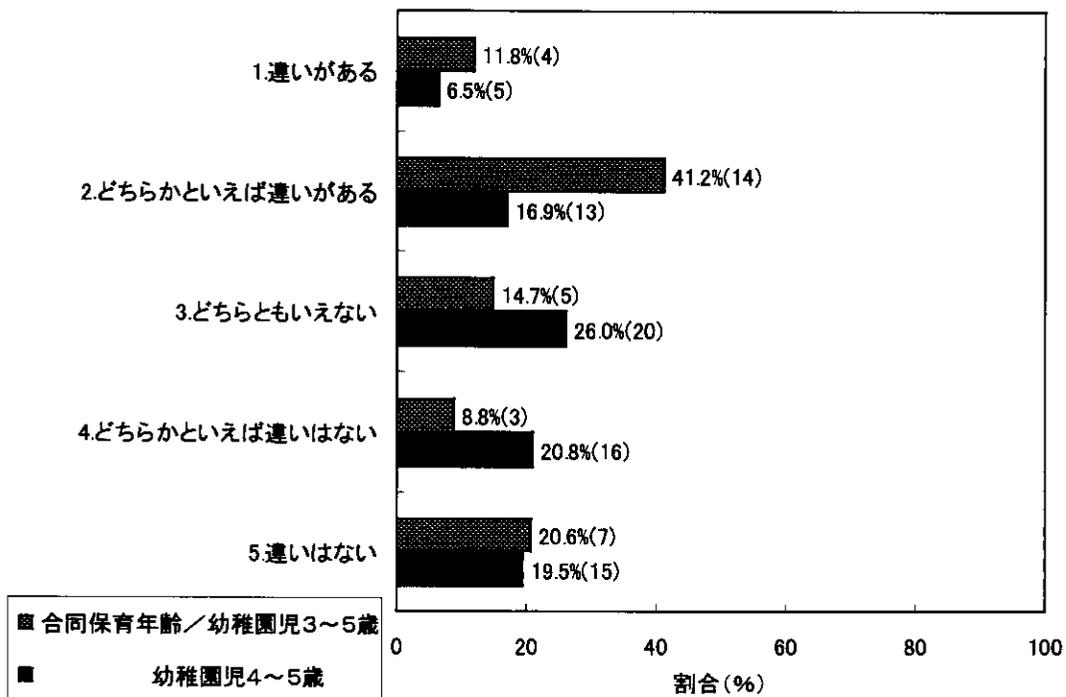


図57 対象年齢別(b)ニーズの認識(合同保育実施園の保育者)

### iii. 保育者の勤務体制

保育者の意見について、保育者の勤務体制別（分析軸 e）がニーズの認識に及ぼす影響を分析した結果が図 58 である。「1.違いがある」「2.どちらかといえば違いがある」を合わせた数値をみると、“別勤務” 77.7 %、“同一勤務” 23.3 %と、“別勤務” の園が 54 ポイント高くなっている。「5.違いはない」「どちらかといえば違いはない。」を合わせた数値をみると、“同一勤務” 39.5 %、“別勤務” 22.2 %と、“同一勤務” の園が 17 ポイント高くなっている。

すなわち、保育所と幼稚園の保育者の勤務体制が同一である方が、保育は同じであるという認識が強いことがわかる。“別勤務” の保育者の方が、保育所か幼稚園いずれかへの所属意識が強く、それにともなって両者の保育の違いを明確に意識すると推測できよう。

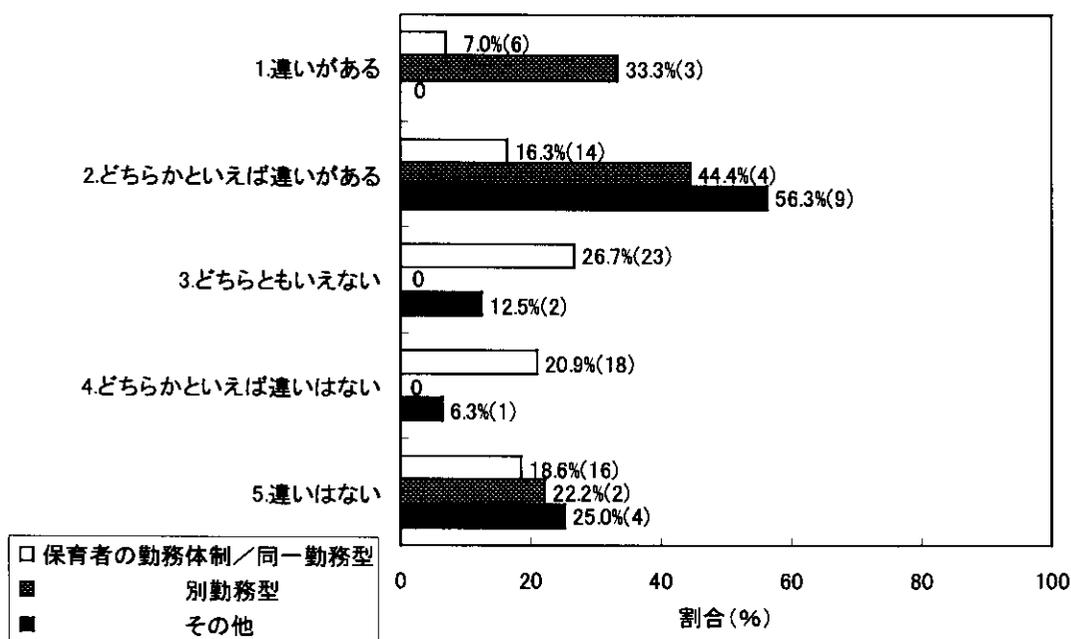


図58 勤務体制別ニーズの認識（a-1）（合同保育実施園の保育者）

### iv. 親の子育てへの関心度

保育者の意見について、親の子育ての関心度別（分析軸 d）に子ども同士の関係を分析した結果が図 59 である。「1.違いがある」「2.どちらかといえば違いがある」を合わせた数値をみると、“中間” 31.5 %、“関心が高い” 27.9 %、“関心が低い” 50.0 %となっている。親の子育てへの“関心が低い”園は“関心が高い”園に比べて、22 ポイント高くなっている。「5.違いはない」「4.どちらかといえば違いはない」を合わせた数値をみると、“関心が高い” 41.8 %、“中間” 35.2 %と、“関心が低い” 28.5 %となっている。“関心が高い”園が“関心が低い”園に比べて 13 ポイント高くなっている。

すなわち、保育者の意見をみると、親の子育てへの“関心が高い”園の方が、“関心が低い”園よりも、保育者が保育園児と幼稚園児の保育の違いを意識しない傾向があることがわかる。

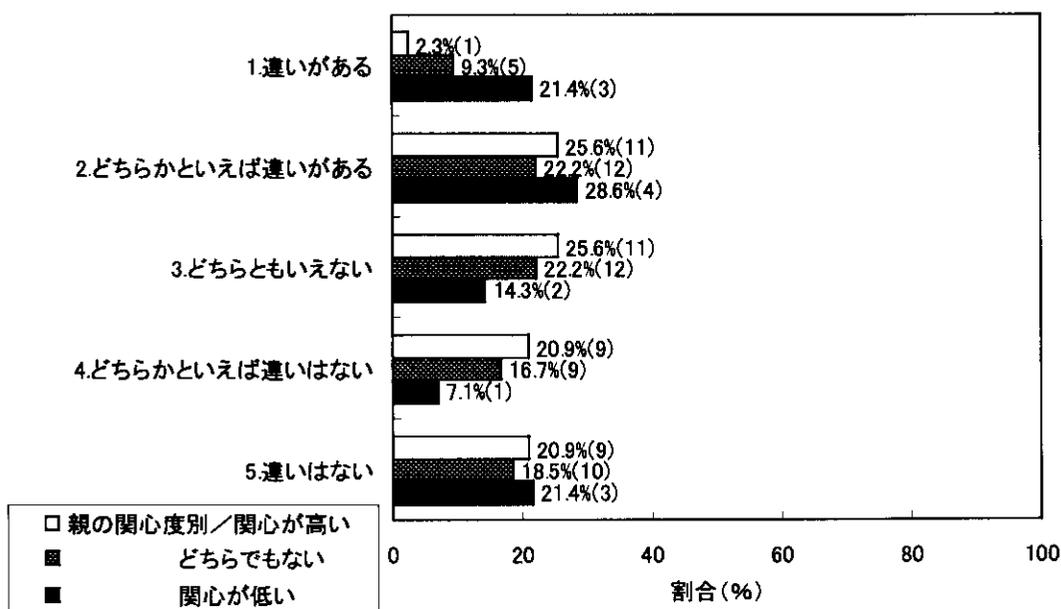


図59 勤務体制別ニーズの認識 (a-1) (合同保育実施園の保育者)

#### 4) 保育園児に対する配慮

保育者に「家庭に代わって保育所で生活時間の大半を過ごす保育感に対して、あなたは幼稚園児とは異なった配慮をしていますか (C 票-Q13)」と尋ねたところ、図 60 の結果を得た。

「1.配慮していない」「2.どちらかといえば配慮していない」を合わせた数値は 10.8%、「5.配慮している」「4.どちらかといえば配慮している」を合わせた数値は 42.3%である。

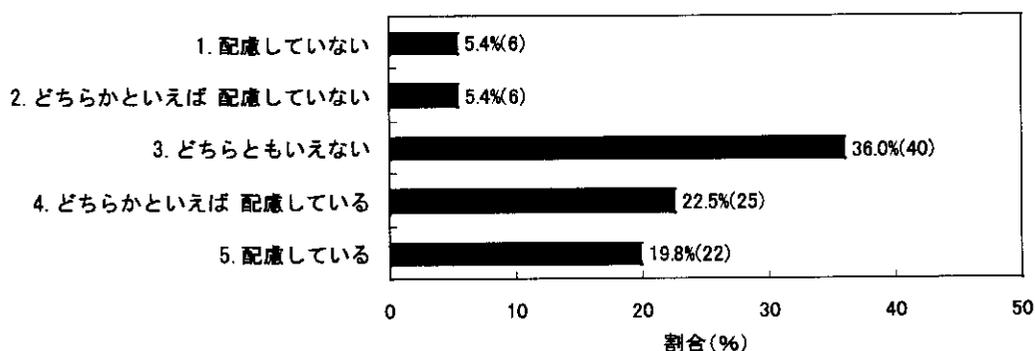


図60 保育園児への配慮 (保育者の意見)

保護者に「保育園児と幼稚園児に対して、先生はそれぞれに合わせて配慮をしているとお感じですか (D 票-Q12)」と尋ねたところ、図 61 の結果を得た。「1.配慮していない」「2.どちらかといえば配慮していない」を合わせた数値は 9.1%、「5.配慮している」「4.どちらかといえば配慮している」を合わせた数値が 52.3%である。

すなわち、保育者、保護者ともに半数前後が、保育者が保育園児と幼稚園児のニーズの違いに対する配慮をしていると考えている。

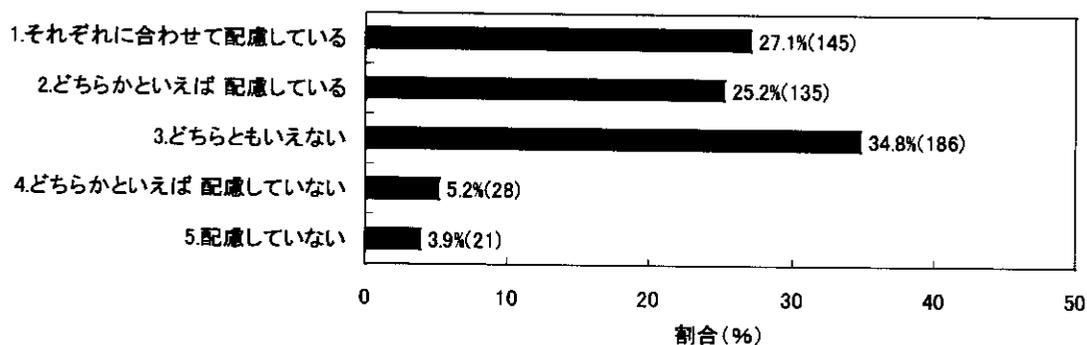


図61 保育園児への配慮（保護者の意見）

保育者の自由回答をみると、保育園児への配慮の具体的な内容は次のとおりである。

資料4 保育園児に対する配慮（具体的内容）

- 家庭的な環境（ゆったりとしたやさしい雰囲気。）
- 心のケア・安定（子どもの気持ちを汲む。気持ちの変化を見逃さずに、不安や寂しさを受け止める。ストレスを受けとめる。せかさない。やんちゃを受けとめる。）
- 休息（心身の休養）
- スキンシップ
- リラックスできる環境
- 自分の好きなことができる時間（自由な活動。子どもの要求を中心にした活動）
- 家庭でするしつけの面も園で行う。
- 養護（爪を切る・髪をとかす）
- 保護者との連携（限られた時間に密な親子関係が築けるように）

保育園児は園で過ごす時間が長いために、家庭に近い環境や親に代わる配慮が必要であるという意見が多い。さらにこのことが必要な理由として、少数だが、保育園児の保護者の養育力について指摘する意見もあった。例えば、「仕事を持つ親は保育所任せの子育てになりがち」「親に家庭での子どもの接し方、生活習慣等をお願いしているが、何度言っても親の態度が変わっていかない」「親の考え方も幼稚園の親の方が教育的な気がする」

一方で、特別な配慮をするべきではないという考えも記されていた。例えば、「異なる配慮とは偏見である。当たり前のことをしている。」「幼稚園は短時間の教育とあるが、今は14時から15時という保育時間である。短時間と考えるのは認識不足である。」「幼保児の違いを特に感じていない」「幼稚園児も生活を営む上で必要なことは同じなので保育園児に限らない」「幼の保育者と一緒に同じように接している。保幼とあまり意識させていない」である。

## (5) 保護者に及ぼす影響と保育者の配慮

### ①保護者同士の関係

#### 1) 保育者の意見

保育者に「保育園の保護者同士、幼稚園の保護者同士で親しくなりがちだと感じますか (C票-Q16)」と尋ねたところ、図62の結果を得た。

「1.保育園児の親同士・幼稚園児の親同士で仲良くなりがち」「2.どちらかといえばそうなりがち」を合わせると47.7%、「3.どちらともいえない」23.4%、「5.親しさの差はない」「4.どちらかといえば親しさの差はない」を合わせると22.5%である。

子ども同士の関係と比べた時、「親しくなりがち」という意見が保護者同士の関係の方が15ポイント高く、また「親しさに差はない」では逆に27ポイント低い。つまり、子ども同士の関係よりも保護者同士の関係の方が偏りがちと、保育者が感じていることがわかる。

合同保育実施園でのヒアリングでも、このような保護者同士の関係の難しさが聞かれた。さらに自由回答の記述からも、保育者、保護者ともに子ども同士の関係よりも難しさを感じていることがうかがえる。

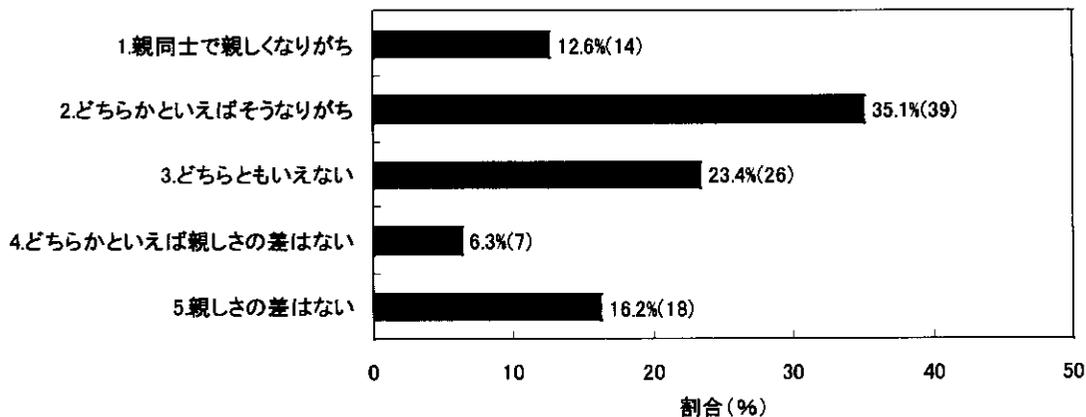


図62 保護者同士の関係 (保育者の意見)

#### 2) 保護者の意見

この質問は、保育者のみで、保護者の意見は尋ねていない。

#### 3) 保護者同士の関係に影響を及ぼすファクター

これを表7の分析軸を用いてクロス分析をしたところ、グループ間に20ポイント以上の開きが見られた項目は、次の通りであった。つまり、この項目が保護者同士の関係に影響を及ぼすファクターとして考えることができよう。

### i. 集団規模

保育者の意見について、在園児の人数別（分析軸 a-1）に保護者同士の関係を分析した結果が図 63 である。「1. 保育園児の親同士・幼稚園児の親同士で親しくなりがち」「2. どちらかといえばそうなりがち」を合わせた数値をみると“200 人以上” 64.3 %、“100～199 人” 46.2 %、“100 人未満” 43.4 %と、集団規模が大きくなるほど「親しくなりがち」という意見が増加している。「5. 親しさの差はない」「4. どちらかといえば親しさの差はない」を合わせた数値を見ると“100 人未満” 36.7 %、“100～199 人” 17.9 %、“200 人以上” 14.2 %と、集団規模が小さくなるほど「親しさの差はない」という意見が高くなっている。“100 人未満” は“200 人以上” に比べて 23 ポイント高くなっている。

すなわち、集団規模が大きくなるほど、保育園児の親同士・幼稚園児の親同士で「仲良くなりがち」という保育者の意見が多くなっている。これは子ども同士の関係と同様の傾向である。

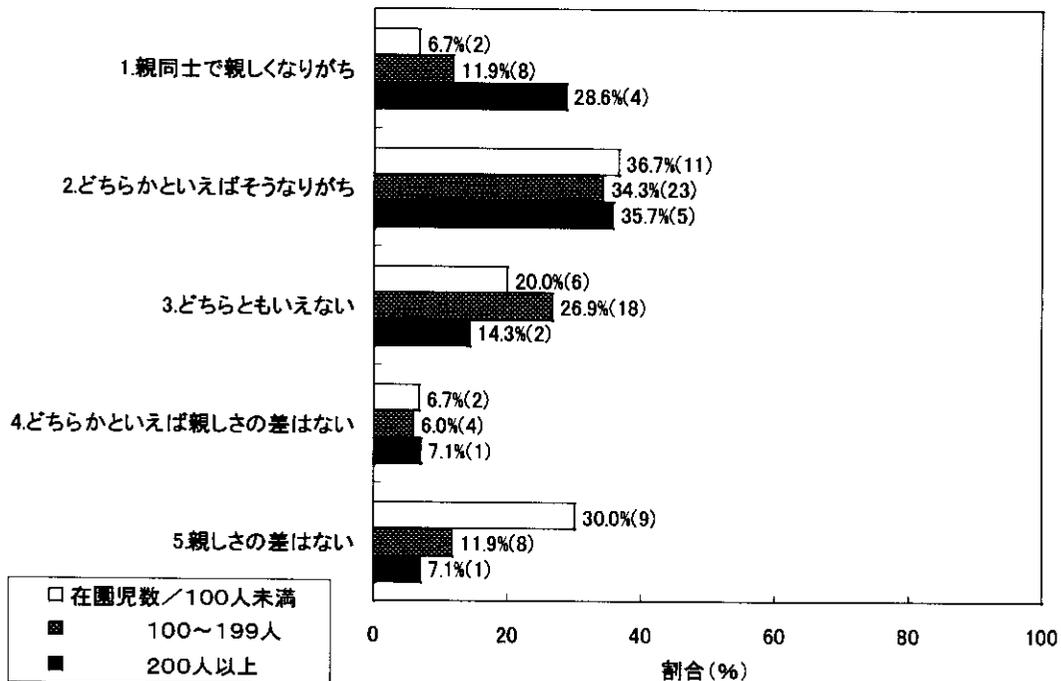


図62 在園児の人数別（a-1）保護者同士の関係（保育者の意見）

### ii. 幼稚園児の保育時間

保育者の意見について、幼稚園児の保育時間別（分析軸 d）に保護者同士の関係を分析した結果が図 64 である。「1. 保育園児の親同士・幼稚園児の親同士で親しくなりがち」「2. どちらかといえばそうなりがち」を合わせた数値をみると、“早帰り型” 56.4 %、“一体型” 0 %、であり、“早帰り型” の園が高くなっている。「5. 親しさの差はない」「4. どちらかといえば親しさの差はない」を合わせた数値を見ると、“一体型” 70.0 %、“早帰り型” 11.5 %となっており、“一体型” の園が 59 ポイント高くなっている。

すなわち、幼稚園児の基本保育時間帯が保育園児と同様の8時間になっている“一体型”の園は、幼稚園児が常に昼食後まもなく（13時30分～2時）降園する“早帰り型”の園に比べて、保育園児の親同士・幼稚園児の親同士で「親しさの差はない」という意見が多くなっている。これは子ども同士の関係と同様の傾向である。

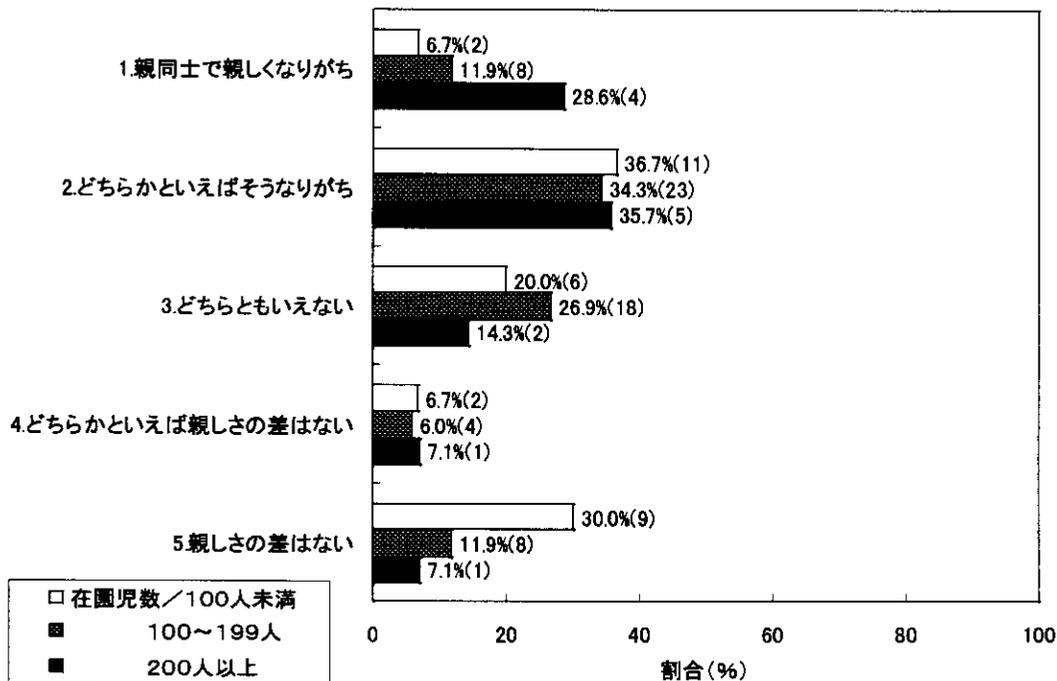


図64 保育時間別〈d〉保護者同士の関係（保育者の意見）

### iii. 保育者の勤務体制

保育者の意見について、保育者の勤務体制別（分析軸e）に保護者同士の関係を分析した結果が図65である。「1. 保育園児の親同士・幼稚園児の親同士で親しくなりがち」「2. どちらかといえばそうなりがち」を合わせた数値をみると、“同一勤務”38.4%、“別勤務”88.9%と、“別勤務”の園が51ポイント高くなっている。「5. 親しさの差はない」「4. どちらかといえば親しさの差はない」を合わせた数値を見ると“同一勤務”26.7%、“別勤務”0%と、“同一勤務”の園が27ポイント高くなっている。

すなわち、保育所保育士と幼稚園教諭の勤務体制が全く同様に一緒にローテーションを組んでいる“同一勤務”の園は、両者が全く別々にそれぞれの保育者間で勤務を組んでいる“別勤務”の園に比べて、保育園児の親同士・幼稚園児の親同士で「親しさの差はない」という意見が多くなっている。これは子ども同士の関係と同様の傾向である。

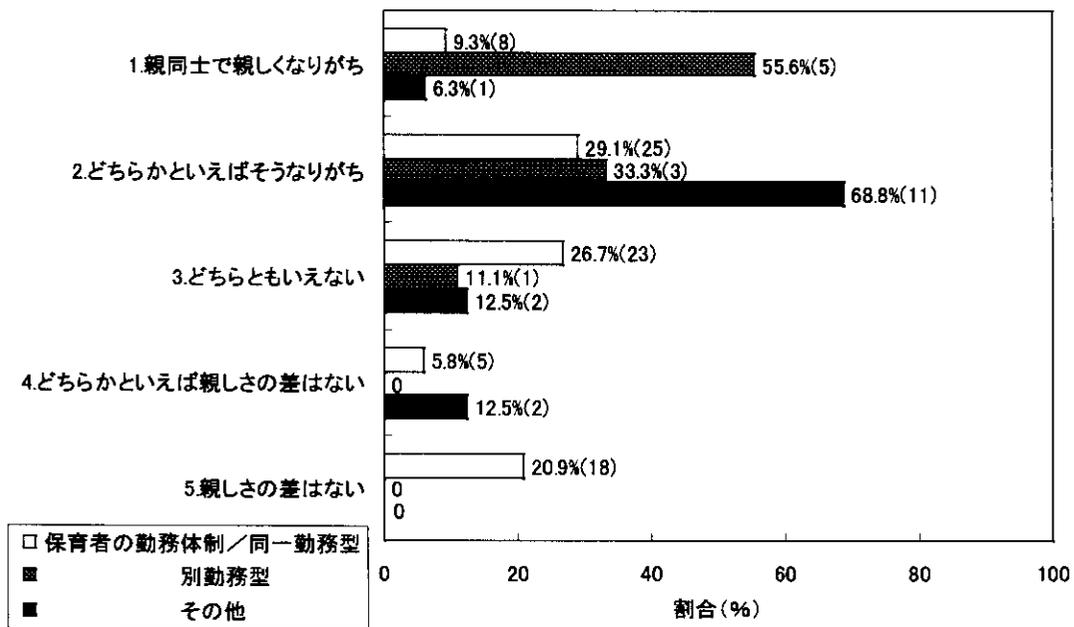


図65 勤務体制別〈e〉保護者同士の関係（保育者の意見）

#### iv. 地域の特性

保育者の意見について、地域の特性別（分析軸 f）に保護者同士の関係を分析した結果が図 66 である。「1.保育園児の親同士・幼稚園児の親同士で親しくなりがち」「2.どちらかといえばそうなりがち」を合わせた数値をみると、“都市化” 64.0%、“過疎地” 0%、と、

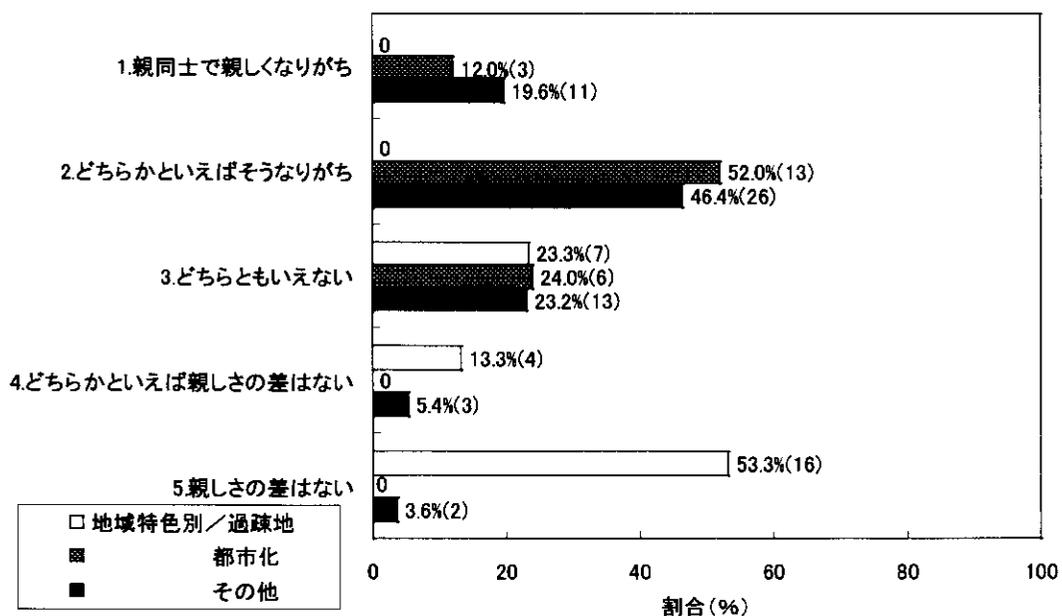


図66 地域の特性別〈f〉保護者同士の関係（保育者の意見）

“都市化”が高くなっている。「5.親しさの差はない」「4.どちらかといえば親しさの差はない」を合わせた数値を見ると“過疎地”66.6%、“都市化”0%と、“過疎地”が高くなっている。

すなわち、“過疎地”の園は、近年新たに人口が流入し待機児が多い地域である“都市化”の園に比べて、保育園児の親同士・幼稚園児の親同士で「親しさの差はない」という意見が多くなっている。これは子ども同士の関係と同様の傾向であるが、保護者同士の関係では、過疎地では「偏りがち」という意見は皆無であり、一方で都市化の進む地域では「固まらない」という意見は皆無という、より一層明確な数値となって表れてきている。つまり、親同士の関係には地域性がより強く反映されるといえよう。

#### v. 親の子育てへの関心度

保育者の意見について、親の子育てへの関心度別（g）に保護者同士の関係を分析した結果が図67である。「1.保育園児の親同士・幼稚園児の親同士で親しくなりがち」「2.どちらかといえばそうなりがち」を合わせた数値をみると、“関心が低い”78.6%、“関心が高い”46.6%、“中間”40.7%の順となっており、“関心が低い”園が“中間”に比べて38ポイント高くなっている。「5.保育園児同士・幼稚園児同士で親しさの差はない」「4.どちらかといえば親しさの差はない」を合わせた数値をみると、“中間”29.6%、“関心が高い”20.9%、“関心が低い”0%の順となっており、“中間”が“関心が低い”に比べて30ポイント高くなっている。

すなわち、親の子育てへの“関心が高い”園の方が、“関心が低い”園よりも、保護者同士の関係が固まらない傾向があること、さらにそれよりも親の子育てへの関心が高くも低くもないほどほどの“中間”の園が、最も保護者同士の関係が固まりにくい。これは、子ども同士の関係と同様の傾向である。

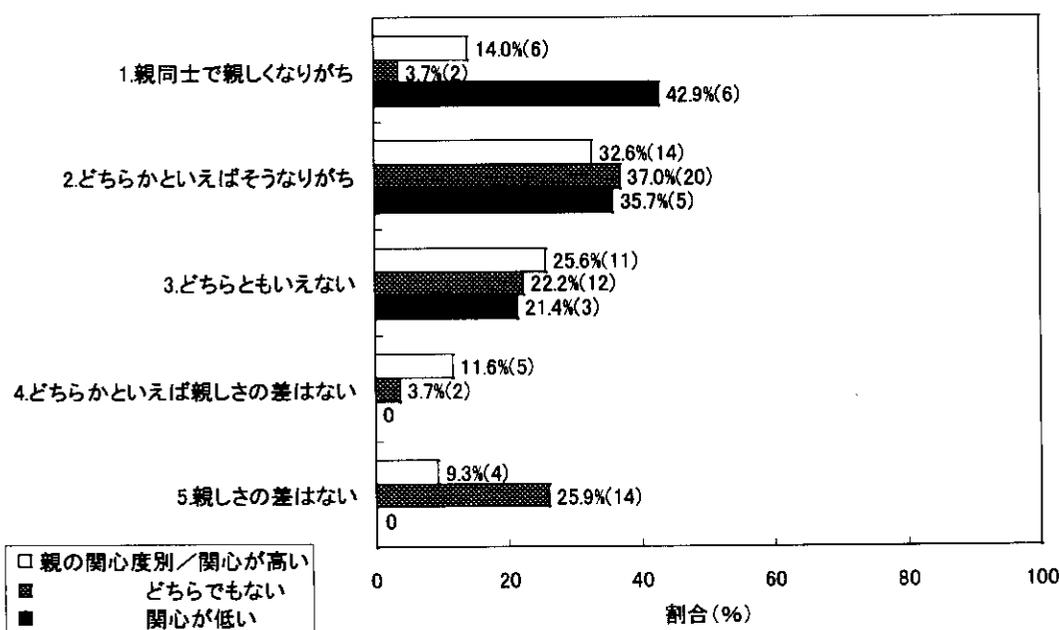


図67 親の関心度別（g）保護者同士の関係（保育者の意見）

#### 4) 保護者への配慮

##### i) 保護者同士の関係への配慮 (保育者の意見)

保育者に「あなたは保育園児の保護者と幼稚園児の保護者が仲良くなるための配慮をしていますか (C票-Q17)」と尋ねたところ、図 68 の結果を得た。

「1.配慮していない」「2.どちらかといえば配慮していない」を合わせた数値は 29.7%、「3.どちらともいえない」は 43.2、「5.配慮している」「4.どちらかといえば配慮している」を合わせた数値は 18.9%であり、子ども同士の関係への配慮が半数強であったことに比べて低くなっている。

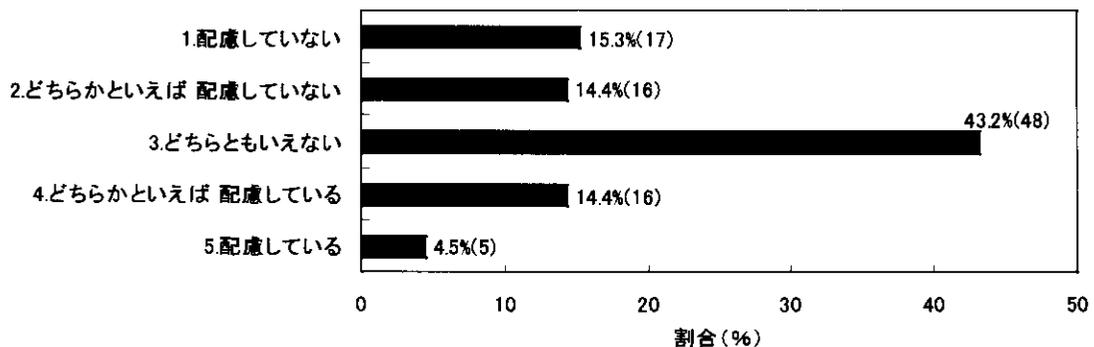


図68 保護者同士の関係への配慮 (保育者の意見)

自由回答をみると、その内容は次のようなものとなっている。

##### 資料5 保護者同士の関係に対する配慮 (具体的内容)

○親子同士が交流をもてるような機会を多く持つ

例 / ・保護者会行事・クラス交流会・参観日・園行事・家庭学級・役員会・町のバレーボール大会への出場…

・自己紹介やお互いの意見を交換したり、和やかな集会を持ち、ふれあう機会を作る・幼保混合のグループを作って活動を共にする・遠足などの時に、離れて座らないように、座る場所を指定したりして一緒に座るようにする)

○PTA組織が一緒である。

例 / ・保育園児の保護者、幼稚園児の保護者で分けずに、一つのクラスとして一緒に活動

○子ども同士の関係について話して理解してもらう

例 / ・子どもの様子を話しながら保護者同士のつながりがもてるようにしている・ほとんどの子どもが中学まで一緒に通うので、共に育ち合おうということ意識して話す。

一方で、保育園児の親・幼稚園児の親ということでの配慮はしない、という次のような記述もみられた。

- 幼稚園児、保育園児という分け方ではなく、一人一人の保護者の立場に立っていけるよう心がけている。
- 自然の成り行きに任せて何かあるときだけ手助けするようにする

また、基本保育時間が同じ“一体型”の園では、「幼稚園か保育所かという子どもの所属を親はあまりわかっていない」という意見もあった。

## ii) 保育園児の保護者への配慮

保護者に「あなたは、合同保育であることから、保育園児の保護者に配慮していますか(C票-Q19)」と尋ねたところ、図69の結果を得た。「1.配慮していない」「どちらかといえば配慮していない」を合わせた数値は24.3%、「どちらともいえない」48.6%、「5.配慮している」「4.どちらかといえば配慮している」を合わせた数値は19.8%となっている。子どもへの配慮と比べて、低い数値にとどまっているといえよう。

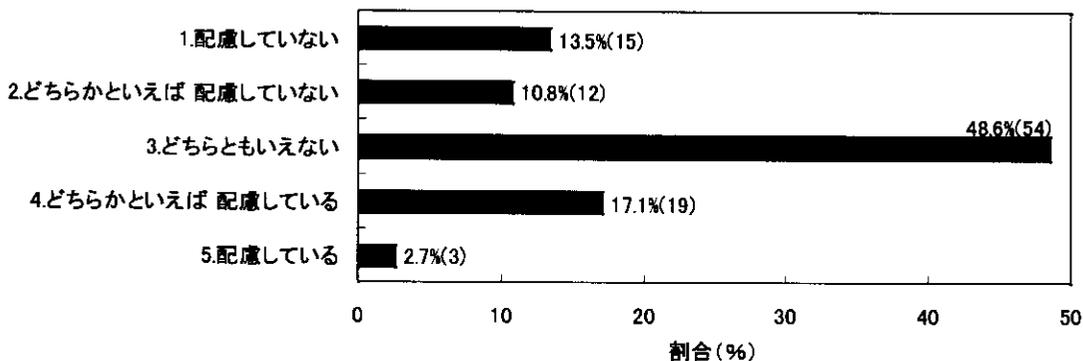


図69 保育園児の保護者への配慮（保育者の意見）

自由回答をみると、その内容は次のようなものとなっている。

### 資料6 保育園児の保護者に対する具体的配慮（保育者の意見）

- 合同保育の良さを説明する  
（両方の子どもたちの良さをアピールしたりして、共に刺激し合うプラス面を親に説明する。）
- 子どもや保育の様子を伝えたり、行事などの説明をするなど、保護者との連絡を密にする

(連絡ノート・クラスだより・手紙・壁に張り出す・必要に応じて直接話し合う・子どもが違和感を持たないように、自然に保育していることを伝える・不安を取り除くように話す)

○それぞれ違うことについては、そのことが両方にわかりやすく伝える。

(夏休み・特別保育)

○園行事への参加の呼びかけ

○働いている親には、園行事の予定を組むとき、都合のつく日を前もって相談し、ある程度考慮して決める。

○行事が続いているときには、働いている母親にあまり負担にならないように考えたり、職員の話し合いで提言する

また、保育者が幼稚園教諭・保育所園保育士の所属が明確な園では、次のような意見もあった。

○書類の上では幼稚園の担任だったが、幼稚園・矮躯園の区別なく、子どもにも保育者にも背接してきた

○幼稚園の担任、保育園の担任ということではなく、お互いの保護者に子どもの様子を話し、二人で見ているという点をアピールしたりしている。

一方で、次のような意見もあった。

○保護者への配慮はしていないが、平等ということで区別なく関わるようにしている。

○問われる意味がわからない。保護者はどちらの保護者も同じだと思うが。

## (6) 保育者に及ぼす影響

### ①保育者の負担

#### 1) 保育者の意見

保育者に「合同保育によって、保育者の負担が重くなるとお感じですか。それとも負担が軽くなるとお感じですか（C票-Q20）」と尋ねたところ、図70の結果を得た。

「1.負担が重くなる」「2.どちらかといえば負担が重くなる」を合わせると61.2%、「3.どちらともいえない」30.6%、「5.負担が軽くなる」「4.どちらかといえば軽くなる」と回答した者を合わせると2.7%である。

すなわち、「負担が重くなる」という意見が過半数を占めている。

負担の具体的な内容について、自由回答には次のように示されている。

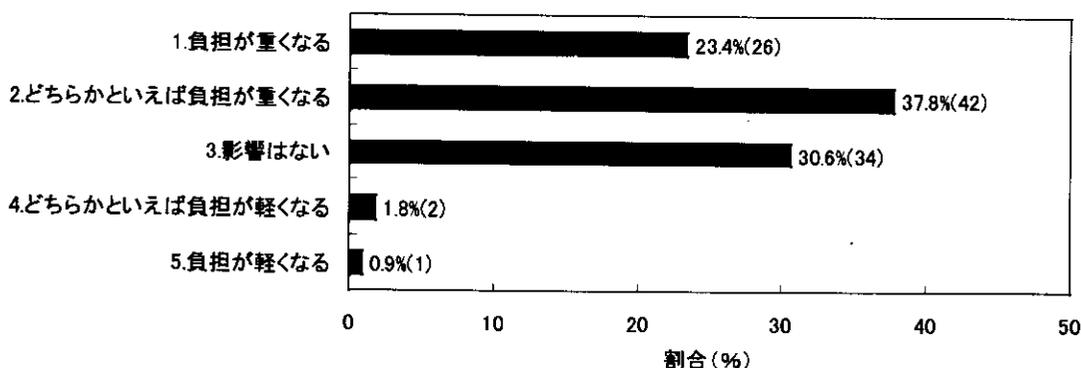


図70 合同保育による保育者の負担（保育者の意見）

#### 資料7 保育者への負担（具体的内容）

○事務・記録・研究発表等が二重になる

（厚生省・文部省の双方に提出・書類や帳簿、出席日数、給食費等の計算が異なる・幼稚園教育要領に則り指導要録等を書く一方で保育所保育指針についても考えなければならない・特に幼稚園の場合は研究が多いが、保育所保育士と同様の勤務だとそのための時間がとれない）

○保育時間が長くなり、教材準備・事務処理・研究会の準備・保育者同士の話し合い・研修などの時間がとれない

○保育形態が複雑になる（降園時間が異なる・午睡の有無）

○勤務体制の複雑さ（時差出勤・保育部へのローテーション）